

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)あま市サービス付き高齢者向け住宅+デイサービス様	階数	地上3階
建設地	愛知県あま市中萱津砂入19番	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、防火指定なし	平均居住人員	122人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年9月 予定	評価の実施日	2021年8月27日
敷地面積	1,463 m <sup>2</sup>	作成者	片岡達哉
建築面積	739 m <sup>2</sup>	確認日	2021年8月27日
延床面積	2,176 m <sup>2</sup>	確認者	片岡達哉



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 0.8** ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質 Qのスコア = 2.4**

#### Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.9

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.8

#### Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 1.3

### LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2

#### LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.5

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.7

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.4

### 3 重点項目

#### ①地球温暖化への配慮 5.0

#### ③敷地内の緑化 1.0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) **0.0%**

建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) **0.0%**

#### ②資源の有効活用 2.7

#### ④地域材の活用 1.0

<外装材に使用した地域性のある材料> **なし**

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> **なし**

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分			住居・宿泊部分		全体		
				評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点		重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>											
<b>Q1 室内環境</b>											
<b>1 音環境</b>											
1.1 室内騒音レベル		0.1	2.6	0.15	2.2	2.2	1.00	-	2.4		
1.2 遮音		0.4	3.0	0.40		2.2	0.40		2.9		
1 開口部遮音性能			3.0	1.00		3.0	0.30				
2 界壁遮音性能			-	-		3.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	-		1.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	-		1.0	0.20				
1.3 吸音			1.0	0.20		1.0	0.20				
<b>2 温熱環境</b>											
2.1 室温制御		0.3	2.6	0.35	2.6	2.6	1.00		2.6		
1 室温		0.5	3.0	0.50	3.0	3.0	0.50				
2 外皮性能		3.0	3.0	0.38		3.0	0.57				
3 ゾーン別制御性		3.0	3.0	0.25		3.0	0.43				
2.2 湿度制御		3.0	3.0	0.38		-	-				
2.3 空調方式		3.0	1.0	0.20		1.0	0.20				
		3.0	3.0	0.30		3.0	0.30				
<b>3 光・視環境</b>											
3.1 昼光利用		0.2	3.0	0.25	3.0	3.0	1.00		3.0		
1 昼光率		0.3	3.0	0.30	3.0	3.0	0.30				
2 方位別開口		3.0	3.0	0.60		3.0	0.60				
3 昼光利用設備		3.0	3.0	0.40		3.0	0.40				
3.2 グレア対策		0.3	3.0	0.30	3.0	3.0	0.30				
1 昼光制御		3.0	3.0	1.00		3.0	1.00				
3.3 照度		3.0	3.0	0.15		3.0	0.15				
3.4 照明制御		3.0	3.0	0.25		3.0	0.25				
<b>4 空気質環境</b>											
4.1 発生源対策		0.2	3.5	0.25	3.6	3.6	1.00		3.5		
1 化学汚染物質		0.5	4.0	0.50	4.0	4.0	0.63				
	F☆☆☆☆採用	3.0	4.0	1.00		4.0	1.00				
4.2 換気		0.3	3.0	0.30	3.0	3.0	0.38				
1 換気量		3.0	3.0	0.50		3.0	0.33				
2 自然換気性能		3.0	3.0	-		3.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	3.0	0.50		3.0	0.33				
4.3 運用管理		0.2	3.0	0.20	-	-	-				
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	3.0	-		-	-				
2 喫煙の制御		3.0	3.0	1.00		-	-				
<b>Q2 サービス性能</b>											
<b>1 機能性</b>											
1.1 機能性・使いやすさ		0.4	2.4	0.40	4.0	4.0	1.00		2.8		
1 広さ・収納性		0.4	3.0	0.40	5.0	5.0	0.60		3.1		
2 高度情報通信設備対応		3.0	3.0	-		3.0	1.00				
3 バリアフリー計画	独自	3.0	3.0	1.00		-	-				
1.2 心理性・快適性		0.3	1.0	0.30	2.5	2.5	0.40				
1 広さ感・景観(天井高)		3.0	3.0	-		4.0	0.50				
2 リフレッシュスペース		3.0	3.0	-		-	-				
3 内装計画		3.0	1.0	1.00		1.0	0.50				
1.3 維持管理		0.3	3.0	0.30	-	-	-				
1 維持管理に配慮した設計		3.0	3.0	0.50		-	-				
2 維持管理用機能の確保		-	3.0	0.50		-	-				
<b>2 耐用性・信頼性</b>											
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.3	2.9	0.31	-	-	-		2.9		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48	-	-	-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80	-	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		0.3	3.0	0.33	-	-	-				
1 躯体材料の耐用年数		-	3.0	0.23	-	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	-	3.0	0.23	-	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	3.0	0.09	-	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.08	-	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	3.0	0.15	-	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-				
2.4 信頼性		0.1	2.6	0.19	-	-	-				
1 空調・換気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-				
2 給排水・衛生設備		3.0	1.0	0.20	-	-	-				
3 電気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-				
4 機械・配管支持方法	②	3.0	3.0	0.20	-	-	-				
5 通信・情報設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-				

3 対応性・更新性				0.2	2.5	0.29	2.4	2.4	1.00	2.4
3.1 空間のゆとり				0.3	1.8	0.31	1.8	1.8	0.50	
1 階高のゆとり				-	1.0	0.60		1.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ				3.0	3.0	0.40		3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			②	0.3	2.6	0.38				
1 空調配管の更新性					3.0	0.17				
2 給排水管の更新性				3.0	1.0	0.17				
3 電気配線の更新性				3.0	3.0	0.11				
4 通信配線の更新性				3.0	3.0	0.11				
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30				1.3
1 生物環境の保全と創出			独自③		1.0	0.30				1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		1.0	0.40				1.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30				2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		2.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性										3.2
LR1 エネルギー					-	0.40				3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI,BPI <sub>m</sub> 0.70	3.0	5.0	0.30				5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.20				3.0
3 設備システムの高効率化				3.0	2.9	0.30				2.9
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20				3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00				
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50				
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50				
集合住宅の評価				-	-	-				
4.1 モニタリング				-	3.0	-				
4.2 運用管理体制				-	3.0	-				
LR2 資源・マテリアル					-	0.30				2.7
1 水資源保護				0.1	2.2	0.15				2.2
1.1 節水				3.0	1.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67				
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.7	0.63				2.7
2.1 材料使用量の削減					2.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.25				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-	3.0	0.21				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	-	3.0	1.0	0.21			
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	躯体と仕上げ材が容易に分別可能	3.0	4.0	0.25			
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22				3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68				
1 消火剤					-	-				
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.50				
3 冷媒				3.0	3.0	0.50				
LR3 敷地外環境					-	0.30				3.4
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2概算値: 48%	-	5.0	0.33			5.0
2 地域環境への配慮				0.3	2.4	0.33				2.4
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善					2.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.7	0.25				
1 雨水排水負荷低減			独自		3.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25				
3 交通負荷抑制			独自		3.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制					2.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33				3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40				
1 騒音			独自		3.0	1.00				
2 振動			独自		-	-				
3 悪臭					-	-				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40				
1 風害の抑制					3.0	0.70				
2 砂塵の抑制					3.0	-				
3 日照障害の抑制					3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					3.0	0.70				
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30				

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)あま市サービス付き高齢者向け住宅+デイサービス様

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>5.0</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	5.0	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.7</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	2.5	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:0%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)あま市サービス付き高齢者向け住宅+デイサービス棟

計画上の配慮事項	
総合	自然エネルギーを最大限に活用し、安全で使いやすい施設となるよう配慮した。
Q1 室内環境	適切な温度管理ができるよう、個別空調を採用した。
Q2 サービス性能	極力無駄のないレイアウトとした。
Q3 室外環境(敷地内)	極力無駄のないレイアウトとした。
LR1 エネルギー	外皮の断熱性能を適切にしたうえで、できる限り自然エネルギーを活用できるようにした。
LR2 資源・マテリアル	出来る限り有害物質を含む材料を使用しない。
LR3 敷地外環境	大気汚染、騒音等周囲の環境に悪影響を及ぼす事の無いよう配慮した。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。